

研究協力のお願

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

周産期情報を用いた新たな診断・予知法の開発

1. 研究の対象および研究対象期間

2024年1月～2026年12月に昭和大学横浜市北部病院産婦人科を受診された妊婦(胎児)の方

2. 研究目的・方法

妊娠中の超音波検査を含めた各種検査により赤ちゃん(胎児)やお母さん(母体)の情報を得ることで、疾患を早期診断に診断することは新生児治療へスムーズに移行させるばかりでなく、安全な周産期管理につながり、赤ちゃん(新生児)やお母さん(母体)にとって大きなメリットとなります。また、様々な周産期合併症(前置胎盤、癒着胎盤、早産、常位胎盤早期剥離、子宮内胎児発育不全など)はその発症機序は未だ不明で、確立された予見方法はありません。そこで、診療情報を元にした統計解析を行い、疾患発症予測、診断精度向上システムの開発を目的として研究を行います。この検査は通常診療で行われる範囲のものであり、患者さん及び胎児に負担がかかるものではありません。

個人情報保護のため、取得した情報および画像情報は個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等、個人を識別できる情報を削除し符号化を行います。独自の符号と個人を識別できる情報を照合できる表(対応表)を作成した後に、個人を識別できる情報を削除します。対応表を参照しなければ、どの個人の情報が直ちに判別できない情報に加工します。対応表は暗号化し、昭和大学医学部産婦人科学講座にて施錠保管します。符号化された診療情報も第三者が閲覧できないように管理します。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2026年12月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

患者背景情報(年齢・身体所見)、臨床検査情報(画像情報[超音波、CT、MRI、病理画像]、血液生化学所見、血清マーカーなど)、病態(診断名)、診療後の経過情報(治療・予後)

